

# 富山経協



キンモクセイ (解説・19ページ)

## CONTENTS

- 2 富山地区会員懇談会 (報告)  
富山経協の現況、新会員紹介
- 3 富山地区会員懇談会 (講演要旨)
- 4 TOP INTERVIEW  
アイペック 吉岡裕一社長
- 6 調査報告  
女性社員に対する「仕事と生活の両立等に関する意識調査」
- 8 Keikyo行事レポート
- 11 参加者NOTES
- 17 富山県生活環境文化部との情報交換 (発表要旨)
- 18 管理職マネジメント研修 経営者講話 (要旨)
- 20 会員の動き、富山県の最低賃金
- 21 景況指標
- 22 おしらせ・事業予定

# 9月 理事会

9月理事会は9月5日(金)17時から富山第一ホテル2階「若草」において、稲垣代表理事はじめ理事6名、監事2名が出席して開催した。

①新会員の承認、2014年度事業実績報告を行い、17時25分閉会した。



# 富山地区会員懇談会



町野副会長



稲垣会長



荒木県企業管理者



笠井副会長

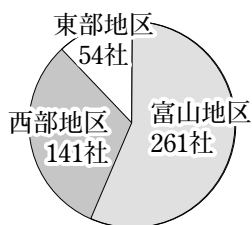
9月5日(金)17時30分から、「富山地区会員懇談会」を150名が参加して、富山第一ホテル3階白鳳・天平の間で開催した。

富山第一高校サッカー部監督の大塚一朗氏が「日本一への軌跡」と題して講演した。

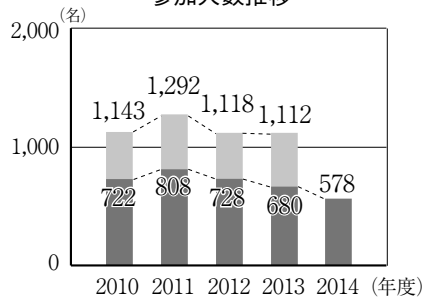
その後、懇親会を行い、初めに稲垣会長から新入会員の紹介があり、町野副会長の開会挨拶、荒木勝郎公営企業管理者の挨拶の後、稲垣会長が日本酒で乾杯の音頭をとった。和やかな懇談の後、笠井副会長が中締めを行い、散会した。

## 富山県経営者協会の現況

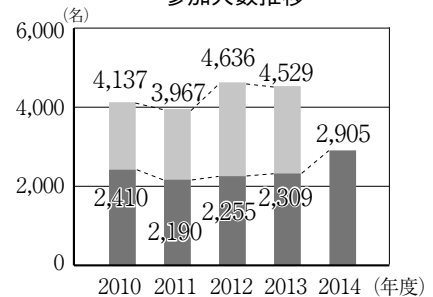
会員数：456社  
(2014年10月1日現在)



会議(総会、理事会、各委員会など)参加人数推移



講座・見学会など参加人数推移



## 新会員の紹介

(50音順)

### ■ カナヤママシナリー株式会社

所在地 黒部市沓掛 3259  
 代表者 代表取締役 金山 宏明  
 設立 1954(昭和29)年9月  
 資本金 2,000万円  
 従業員 56名  
 事業内容 真空機器製造装置用部品製作、  
 プリント基板製作、福祉機器(車いす)設計 製造 販売



### ■ 富山県生活協同組合

所在地 富山市金屋 555  
 代表者 理事長 松浦 均  
 設立 1959(昭和34)年4月  
 資本金 3億円  
 従業員 230名  
 事業内容 宅配事業、福祉事業、共済事業



### ■ 株式会社 テックス

所在地 射水市戸破針原8-9  
 代表者 代表取締役 寺岸 茂  
 設立 2013(平成25)年7月  
 資本金 170万円  
 従業員 1名  
 事業内容 ISOコンサルティング、業務改善  
 コンサルティング・セミナー



### ■ 北産運輸株式会社

所在地 富山市中田2丁目1番 30号  
 代表者 代表取締役社長 氷見 直樹  
 設立 1961(昭和36)年4月  
 資本金 3,000万円  
 従業員 70名  
 事業内容 貨物自動車運送事業、機械器具  
 設置工事業、倉庫業等



## 「日本一への軌跡」

富山第一高校サッカー部監督 大塚 一郎 氏



今日は第92回全国高校サッカー選手権大会優勝の裏話と、私の富山第一高校での取り組みについてお話しします。

この大会で話題になったキーパーの田子は、素晴らしい活躍をしてくれました。僕たちは前年度にPKで負けていて、PKで勝つ秘訣を作るため185cmで手足も長い彼に練習をさせたらどんどん上手くなりました。なでしこジャパンのコーチに教わった作戦でキッカーの傾向をもとにサインを出したのですが、彼はサインと逆に飛んで止めた。相手の監督が「例のキーパーが出てきたぞ」と言うのが聞こえて「相手が自分を知っているなら逆に飛ぼう」と思ったそうです。普段から「自主性」と言っていますが、大観衆の中、自分で判断したのはすごいと思います。

1点目を入れた高波は得点力があるがディフェンスが苦手なので、スーパーサブでとっておきの所を出しました。彼は本当に真面目で、普段から一生懸命練習していたのが試合で出たと思います。スタンドにはユニフォームをもらえなかった3年生が15人いて、彼らの目を見て落ち着いたと話していました。いつも「苦しい時はスタンドにいる15人の目を見ろ」と言ってきましたが、仲間の思いが彼に自信を持たせてくれたと思います。

3点目を入れた村井はやんちゃ坊主です。実力はあるが慢心から練習をサボりがちで、それを叱ったら、自ら考えて草むしりを2週間続けてから「もう一度一緒に練

習させてください」と言ってきました。それからは朝7時に来て一人で左足のシュートを練習し、夜も遅くまで黙々とやっていました。神様はちゃんと見ていて、最後にゴールを決められたと思います。

僕は準決勝から修徳高校のマフラーを着けていました。古川電工の4つ年下の同期が岩本三郎君といい、修徳の岩本監督の弟でしたが、僕がシンガポールで監督をやっている頃に交通事故で亡くなりました。葬儀に出られなかったのが心残りで、埼玉の宿舎から車を飛ばして千葉の岩本君の実家に行って線香をあげることが出来ました。準決勝前に岩本監督から「三郎を国立のピッチに立たせてやってくれ」とマフラーを預かりました。マフラーを持って寝ていたらロイヤルボックスで優勝旗とカップを掲げる夢を見ました。彼が正夢にしてくれたと思っています。

ダイヤモンドナインは日本一になるのに必要なものを9つに分けて優先順位をつけてプレゼンさせ、一番良いものを掲げています。優勝した時は「感謝」が一番上でした。有名な学者さんに「勝つ」が一番下なのが良いと言われましたが、今年は「勝つ」が一番上です。理由を聞いたら「僕たちは去年、日本一になった。これをベースに更に飛躍したい。だから勝つが一番です」と言うので「それは良い」と話していたのですが、インターハイで負けてしまいました。選手権予選はこのダイヤモンドナインで勝利したいと思います。

以前は選手権前の夏に辞める子が多く、何とかしたいと始めたのが全員に公式戦を戦ってもらうことです。99名の部員を3つに分けてプレミアムリーグ、北信越リーグ、T1リーグにそれぞれ参加して、全員が出場できるように調整しながら試合に出ています。今では最後までやり続ける選手がほとんどです。

また、健常者と障害者が一緒にサッカーを楽しむアミザードという活動をしています。きっかけの一つはイングランドでコーチ研修をした時、カール君という交通事故で両足をなくした少年と出会ったことです。いつも試合を見に来る彼を監督が誘い、前半はゴールキーパーで、後半は唯一の手を使えるフィールドプレイヤーで出場して3点を取りました。もう一つはプレミアリーグのウェストハムの有名選手が、脳障害の患者さんのリハビリに協力する姿です。弱者を受け入れ、全ての人が交わってサッカーを楽しむ雰囲気がある、富山でそういう社会が実現できたらいいなという思いで生徒たちと障害者とのサッカーに取り組んでいます。生徒たちは障害者の方の「絶対に手を抜いてくれるな、全力でやってくれるから僕たちは楽しいんだ」という言葉に刺激を受けています。

決勝戦の視聴率は最高62.6%、平均49%だったそうです。KNBさんに募って頂いた応援メッセージは、決勝戦で5千通も届きました。一つのメッセージの後ろに100人隠れていると言われていたので50万人、富山県民の半分に応援して頂いたことになります。インタビューで「富山県民のおかげ」と言ったのはこういうところからも来ています。本当にありがとうございました。

## 学びつづける会社 見えない要望に応える

株式会社アイベック  
代表取締役社長

吉岡 裕一 氏



**構造物や設備機器の検査を行う会社として1976年の創業です。**

現会長の高見貞徳が「富山検査」として創業しました。その2年前には水島コンビナートの石油タンクが破損し、深刻な重油漏れが発生する事故があり、検査の必要性が認識され始めていた頃です。

**具体的な仕事内容を教えて下さい。**

創業時から行っているのが、鋼構造物などを壊さず検査する「非

破壊検査」です。1995年の阪神淡路大震災以降、建設鉄骨に第三者検査機関による検査確認が義務づけられ、必要性が認識されるようになりました。X線による鉄鋼溶接部の検査に始まり、金属表面の細かい傷やヒビを探す探傷検査、タンクなどの板厚の超音波測定など多岐にわたります。

最近増えているのが「診断・計測」部門です。急速にインフラ整

備が進んだ高度経済成長期から半世紀が経過して老朽化が問題視され始め、土木構造物、特にコンクリートの劣化や損傷に対する調査診断の需要が増えてきました。それらの橋梁・トンネル等の主要インフラ施設や発電所・石油化学プラント・鉄道施設やスキー場等数々の現場で目的に合った測定装置を用い、診断を行っています。

その他、検査機器を自社開発し、販売もしています。

現在、売上高は約8億円で、部門別では「非破壊検査」が50%超、「診断・計測」が約35%、「開発・販売」が10数%となっています。

**一品質・安全重視の時代に一**

**事業内容が多岐にわたっています。どのように拡大されてこられたのでしょうか。**

私が入社した1990年当時は30人程度の規模でしたが、会長は大きな夢を持ち「お客様からの要望に応える。出来ないことは考えて必ず対応する」というチャレンジ精神で取り組んできました。時代が生産一辺倒から、次第に品質や安全を求めるようになり、検査も多様化し、当社も事業内容を拡大してきました。

専門分野だけの検査を行う会社が多い中で、当社は現在、北陸唯一の総合診断会社として日本溶接協会の非破壊検査事業者のうち、最高位のAランクとして認定を受けています。

**機器の販売もされています。**

検査に使う機器は専門メーカーから買うのですが、検査ごとに高額な機器を揃えなければなりません。その上、使い勝手の良くないものや、検査基準が改正されると性能が不足することなどがあり、現場で使用する立場から機器の開

発にも取り組んできました。

10年前に開発した地下タンク漏洩検査機は北海道から沖縄まで、全国に300台を販売するヒット商品になりました。2012年の笹子トンネル崩落事故後は、アンカーボルトの強度を検査する試験器が注目されています。同様の試験器は従来からありましたが、重くてトンネルの天井などには使えるようなものではなく、小型で軽量なものを自社開発しました。

お客様の要望や意見に応じてきた結果、現在の営業品目は50品目に上ります。

### —技術力の根底に道徳観—

**多様な業務を支える人材育成はどのようにされていますか。**

私も中途入社ですが、技術と経験のある人を採用し、事業領域を広げてきました。ゼネコン、土木、電気関連など多様な業種の出身者が、前職での技術をベースに勉強を重ねて技術を高めています。現在、技術士3名を含め、建築、土木、電気など各種技術者がいます。

新卒者も毎年採用しています。若い技術者には会社の求める技術、本人の希望や個性を踏まえて、現場を経験させています。技術は座学だけで得られるのではなく、仕事の中で身につくもの、現場でのOJTが一番だと考えています。

### 略 歴

1949(昭和24)年6月生まれ。氷見市出身。愛知工業大学卒業後、川田工業(株)勤務を経て1990年富山検査(株)(現株アイベック)入社。92年常務、96年専務を経て、2004年代表取締役社長に就任。2010年(株)アイベックに社号を変更。



朝の確認の言葉などを掲げた朝礼の場で

その上で、全社員がどの技術をどのレベルで持っているか一覧にして、会社の技術力が分かるようにし、半年ごとに全社員が上司と面談の上、「個人目標管理シート」を作成し、仕事・技術から日常の目標を設定しています。資格は平均でも5~6、多い人は20程度を保有しています。

**社員教育で心がけていることは。**

技術はもちろん大切ですが、一番大切なのは道徳観です。検査は形にならない仕事なので、値段が分かりにくい。価格競争になって手を抜くようでは信頼が得られませんし、まして不正があっては致命的です。利益はお客様との信頼関係から得られると論じています。

昨今、ようやく検査に対する価値が社会から認められ始めましたが、検査の本質を理解し、検査の内容を守って行かなくてはなりません。朝礼では倫理研究所の『職場の教養』を読み上げ、また「場を浄める・時を守る・礼を正す」という言葉を朝の確認として唱和しています。

**今後の展望を教えてください。**

生産第一から安全・安心の時代になりましたが、検査に対する認識はまだ高くありません。2010年に、検査・診断を行うだけでなく、内容を評価し、将来を見越した保守や設計を総合的に提案するコンサルティング会社を目指し、社名を「アイベック」(\*)に変更し

ました。

また、多様な検査のノウハウを生かし、インターネット対応モニタリングシステムを開発しました。工事現場や検査対象物にセンサーを取り付け、現場の気象観測や振動測定、亀裂の変異などをインターネット経由で監視、記録できる仕組みです。このシステムを応用して京都市バスの運行状況や乗り換え案内、多言語でガイドも行うバスガイドシステムも作りしました。

経営理念に掲げる「百年の大計人と公」の通り、人も会社も常に学び続け、百年後も輝き続ける会社でありたいと思います。

**座右の銘は。**

「森羅万象 皆我が師」です。世の中のあらゆることから学ぶことが出来ると言い聞かせて、人との出会いを大切にしています。世の中がどうなっているか、自分で考えても限界があります。人とのちょっとした会話が仕事のヒントになることもよくあることです。社員にも座学での技術の習得だけでなく、お客様から学ぶ気持ちを持ってもらいたいと思っています。

※…アイベック (IPEC)

- I…Inspection 検査・調査・点検  
Infrastructure 社会基盤インフラ
- P…Preservation 保全
- E…Engineer エンジニア
- C…Consultant コンサルタント

### 会社概要

#### 株式会社アイベック

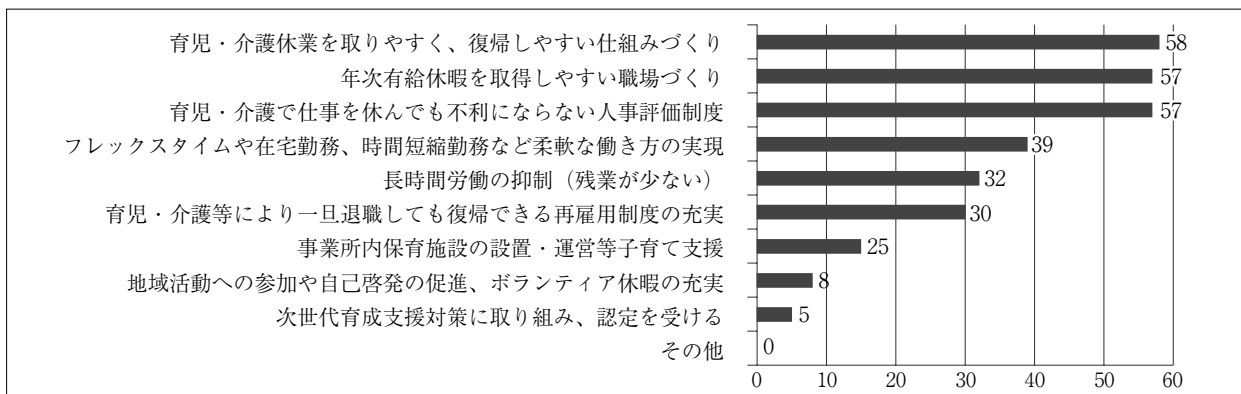
創 業：1976(昭和51)年  
所在地：富山市上野新町5番4号  
資本金：3,000万円  
事業内容：非破壊検査・計測・環境計量・診断調査・補修コンサルタント・検査機器レンタル・検査機器販売  
従業員数：70名(2014年9月現在)  
売上高：8億円(2014年3月期)  
U R L：http://www.ipec-com.jp

## 女性社員に対する「仕事と生活の両立等に関する意識調査」

当協会では、2014年8月と9月に実施した「女性社員活性化セミナー」および「女性リーダー活性化セミナー」の参加者を対象に「仕事と生活の両立等に関する意識調査」を実施し、76名から回答を得た。（調査日：2014年8月21日および9月3日）

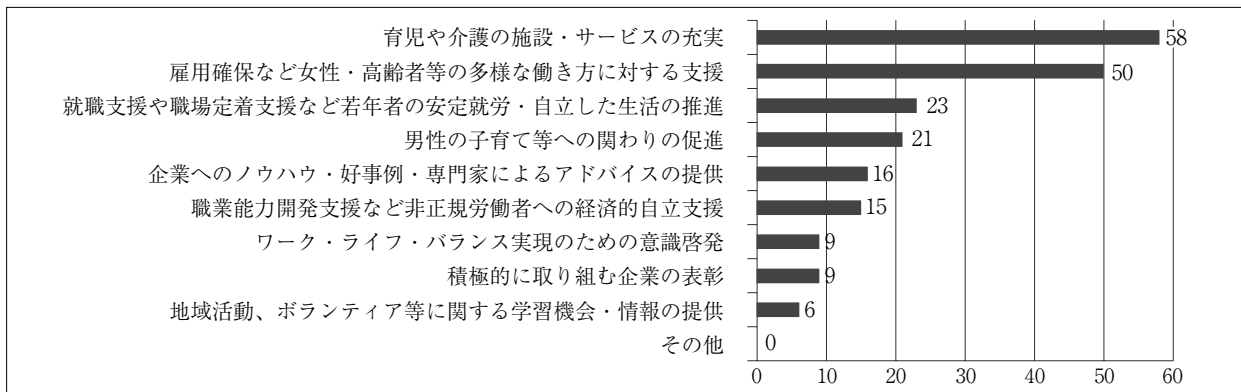
### 問1. 企業による「仕事と生活の調和が実現された社会」に近づくために必要な取組みにはどのようなものがあると考えますか。（複数選択可）

「育児・介護休業を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり」が58名で最も多く、「年次有給休暇を取得しやすい職場づくり」と「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度」が57名でこれに続いている。休暇・休業制度をより一層利用しやすくすることが求められている。



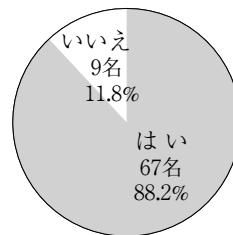
### 問2. 行政による「仕事と生活の調和が実現された社会」に近づくために必要な取組みにはどのようなものがあると考えますか。（複数選択可）

「育児や介護の施設・サービスの充実」が58名、「雇用確保など女性・高齢者等の多様な働き方に対する支援」が50名で、この2項目が特に多かった。女性がより働きやすくなるような制度・環境の整備・充実が求められている。



### 問3. 管理的部門等（管理監督者）への女性の登用が未だに少ないと感じていますか。

「はい」が67名（88.2%）、「いいえ」は9名（11.8%）で、女性の登用が少ないと感じている回答者が圧倒的に多い。2年前から同様の調査をしているが、この2年間で女性の登用が少ないと感じる割合は81.2%→82.2%→88.2%と年々増加傾向にある。

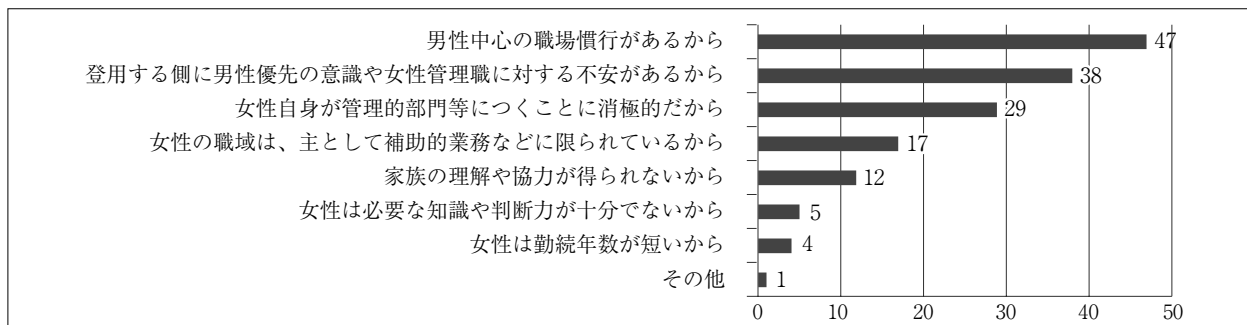


<問3で「はい」と回答した方へ>

### 問4. その理由はどこにあると考えますか。（複数選択可）

「男性中心の職場慣行があるから」が47名で最も多く、「登用する側に男性優先の意識や女性管理職に対する不安があるから」が38名、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」が29名、「女性の職域は、主として補助的業務などに限られているから」が17名の順となった。

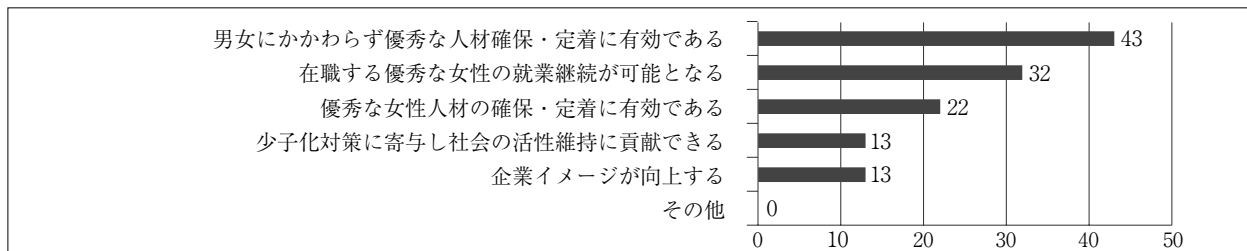
# 関する意識調査」



※その他：女性の求人は一般職ばかりで総合職が少ない

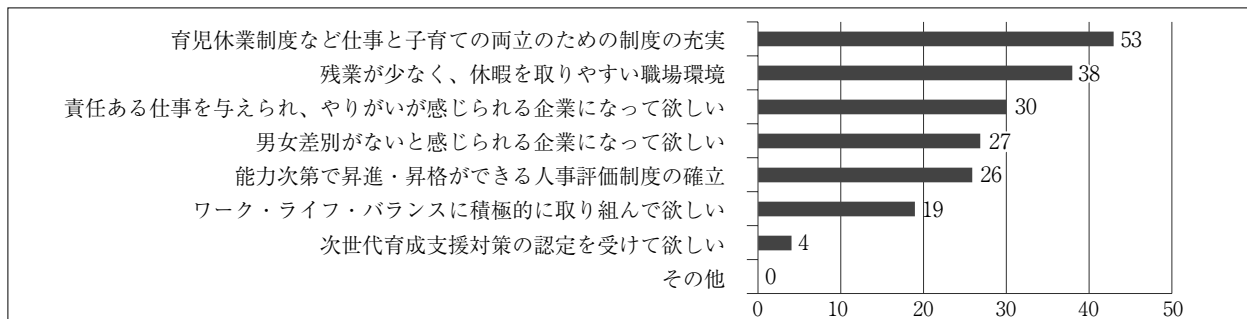
## 問5. 企業における仕事と生活の両立支援策はどのように役立っていると思いますか。（複数選択可）

「男女にかかわらず優秀な人材確保・定着に有効である」が43名で最も多く「在職する優秀な女性の就業継続が可能となる」が32名、「優秀な女性人材の確保・定着に有効である」が22名でこれに続いている。



## 問6. 「仕事と生活の両立」を推進するために、自社に対して望むことは何ですか。（複数選択可）

「育児休業制度など仕事と子育ての両立のための制度の充実」が53名、「残業が少なく、休暇を取りやすい職場環境」が38名で、この2項目が特に多くなっている。職場内に依然として休みづらい雰囲気があることがうかがわれる。



## 問7. 上記以外に「仕事と生活の両立」に関してご意見を自由にお書きください。

以下のような回答があった。

- ・仕事と生活の両立には企業、家族、社員間の理解が必要。
- ・自分自身の体力気力と会社や家庭での役割の重さのバランスに悩む。
- ・幼い子供のために有休を使うことも多いが、休めば責任のある仕事を任せてもらえない。子育てでの夫の協力もなかなか得られず、若い世代の課題は今後も長く続くと思う。
- ・子供が急病になった時にも周りで仕事がカバーできる体制を作って欲しい。
- ・企業により仕事と生活を両立できる差が大きい。
- ・時間内で業務が終わるような人員計画やワークシェアして仕事の流れを止めないような環境づくりが必要。
- ・仕事が終わる時間まで学童保育が利用可能となる様にして欲しい。

## まとめ

政府の女性の活躍を促進する様々な取組みにもかかわらず、依然として仕事と生活の両立や女性の管理職の登用には多くの課題があることがわかる。女性からの子育てと仕事の両立での切実な悩みも聞くことができた。当協会では、今後とも定期的に同様の調査を継続し、会員の皆様に情報提供していく。また経営者を対象に「仕事と生活の調和が実現された社会」の実現、「ポジティブ・アクションの取り組み」に関する啓蒙活動を行っていく。

## 2014年 8月6日～10月6日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	8月 8日(金)	富山経協・研修室B	8
	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	8月20日(水)	富山電気ビル	20
	環境委員会「定例委員会」	環 境	8月28日(木)	富山経協・研修室A	20
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	8月29日(金)	富山経協・研修室A	31
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	9月 2日(火)	富山経協・研修室A	20
	理事会		9月 5日(金)	富山第一ホテル	6
	富山地区会員懇談会		9月 5日(金)	富山第一ホテル	191
	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	9月11日(木)	富山経協・研修室A	12
	富山経協ゴルフコンペ	総務交流	9月27日(土)	呉羽カントリークラブ	31
	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	10月 6日(水)	富山経協・研修室A	15
講 座 ・ セ ミ ナ ー	女性社員活性化セミナー	教 育	8月21日(木)	富山商工会議所ビル	37
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	8月 8・22日(金) 9月 5・19日(金) 10月 3日(金)	富山経協・研修室A	30
	ものづくりと現場改善実践セミナー	品質管理	8月25～26日(月～火)	トナミ運輸年金会館	25
	富山県生活環境文化部との情報交換	環 境	8月28日(木)	富山商工会議所ビル	30
	女性リーダー活性化セミナー	教 育	9月 3日(水)	富山商工会議所ビル	39
	管理職マネジメント研修	教 育	9月 8～9日(月～火)	富山県農業総合研修所	21
	TQM経営者ミーティング	品質管理	9月 9日(火)	富山第一ホテル	10
	ヒューマンエラー対策講座(実践編)	品質管理	9月10・11日(水・木)	富山県市町村会館	60
	第2回労働法実務講座	人事・労務政策	9月11日(木)	富山商工会議所ビル	31
	ISO14001内部環境監査員養成講座	環 境	9月17・18日(水・木)	富山県農業総合研修所	39
	改善力養成講座～業務改善・基礎編～	教 育	9月18日(木)	富山商工会議所ビル	43
ISO9001・ISO14001 2015年度版対応セミナー	経営企画	10月 1日(水)	富山経協・研修室A	22	





## 総務交流委員会

### ■定例委員会

8月定例委員会は8月20日(水)、武内委員長はじめ20名が出席し、富山電気ビルで開催した。

武内委員長の開会挨拶の後、事務局より2014年度事業実施状況(定期調査、外国人労働者調査、賃金改定状況調査、黒部ルート見学会)について報告があった。次に、今後の活動予定について事務局から説明を行い、定期調査活動の時期検討、次回の経営課題調査、第2回婚活イベントについて協議し、承認された。また、事務局より婚活イベントに女性社員への声かけの協力依頼があった。最後に須垣副委員長の閉会の挨拶があり、終了した。

10月定例委員会は10月6日(月)、



武内委員長はじめ15名が出席し、富山経協・研修室Aで開催した。

武内委員長の開会の挨拶の後、事務局より2014年度事業実施状況(会員名簿発行、女性社員に対する意識調査、経営者勉強会、ゴルフコンペ)について報告があった。次に、今後の活動予定(調査スケ

ジュール、婚活イベント、ボウリング大会、企業見学会)と、経営課題調査「人口減少対策と職場での女性の活躍」について協議し、承認された。事務局よりボウリング大会への参加を依頼し、最後に須垣副委員長が閉会の挨拶をした。

### ■第119回富山経協ゴルフコンペ

9月27日(土)、呉羽カントリークラブ・日本海コースで開催した。

爽やかな秋晴れの絶好のコンディションに恵まれ、ホクトミ運輸(株)澤飯社長による挨拶の後、31名の参加者はアウト・イン各4組でスタートした。プレー終了後の懇親会では、お互いのショットに話が盛り上がり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。



主な成績は下記の通りで、富山エフエム放送(株)の明野常務がグロス81、ネット72.6で優勝した。

#### <上位成績> (敬称略)

	氏名	(会社名)	グロス	ハンデ	ネット
優勝	明野 忠	(富山エフエム放送(株))	81	8.4	72.6
準優勝	澤飯 光稔	(ホクトミ運輸(株))	91	18.0	73.0
3位	奥野 修	(日本海ガス(株))	90	16.8	73.2
4位	西島 秀高	(若鶴酒造(株))	88	13.2	74.8
5位	高田 和夫	(トナミ運輸(株))	98	22.8	75.2

## 人事・労務政策委員会

### ■定例委員会

8月29日(金)、綿貫委員長、布目、浅野副委員長はじめ委員28名が出席して、8月度定例委員会を富山経協・研修室Aで開催した。

平成28年1月に導入が開始される「マイナンバー制度」は民間企業に様々な業務対応が求められており、事前の準備が必要なことから、(株)野村総合研究所 未来創発センター制度戦略研究室長 梅屋真一郎氏を講師に招き、「マイナンバー制度について～内容と導入ま



での準備等～」と題して講演いただいた。

同制度は(1)社会保障制度の的確な把握、(2)税の確実な徴収、(3)災害対策など多方面にわたって活用され、公平・公正な社会を

作り出す「社会インフラ」の究極的な制度である。これまでの住基ネットなどとは異なり、個人番号の管理についてその個人番号利用実務者、利用者、管理者は厳格な管理を求められ、違反に対しては厳しい罰則(4年以下の懲役)が科せられるとしているが、周知については今後課題を残している。内閣府のホームページで同制度についての詳細が掲載され、質問等も可能となっている。全企業が対象となるので、できる限り早めの対応が望まれる。

## ■労働法実務研修会（第2回）

9月11日(木)、「派遣をめぐる現状と今後の留意点」をテーマに31名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、派遣をめぐる状況について、2012年10月の労働者派遣法改正後の動向や労働者派遣法再改正の見通しなどを紹介し、これまでの施行では派遣元に対する事業規制が中心だったが、このまま派遣法の再改正が行われなかった場合、2015年10月から「雇入れみなし制度」が施行され、派遣労働

者を受け入れている企業に多大な影響を及ぼす可能性が高いと指摘した。雇入れみなし制度は、違法であることを知りながら派遣を受け入れた場合に派遣先が派遣労働者に労働契約を申し込んだものとみなすもので、雇入れ申し込みのみが成立していたか（派遣受け入れが違法であったか）を巡る訴訟が多発するおそれがあると警鐘を鳴らした。

「派遣禁止業務への派遣受け入れ」「派遣事業主以外からの派遣受け入れ」「派遣可能期間を超過した派遣受け入れ」「偽装請負の



受け入れ」など具体的な違法派遣や偽装請負の認定について事例や判例を紹介するとともに、派遣労働者を活用する際の注意点や派遣会社を選択する際のポイントなどについても解説した。

## 教育委員会

### ■女性社員・女性リーダー 活性化セミナー

8月21日(木)、一般職の女性社員37名が参加して、女性社員活性化セミナーを富山商工会議所ビルで開催した。



金城大学短期大学部岡野絹枝教授から、中堅社員として果たすべき役割と立場、女性のキャリア形成とこれからの働き方、自分の棚卸し、仕事を進めるためのコミュニケーションのスキルアップなどについて、レクチャーやグループワークを通して学んだ。

プロフェッショナルな社員としての役割を強く認識し、職業能力を積極的に開発し、仕事に対して常に前向きに取り組むことが重要であるとした。



また、9月3日(水)には、リーダー・管理監督者39名が参加して、女性リーダー活性化セミナーを富山商工会議所ビルで開催した。自らのキャリアについて振り返り、自己実現について考えるとともに、部下や後輩の指導育成、職場における合意形成、問題解決・改善や社会貢献などについて異業種交流を通じて学んだ。

講師の岡野氏は、自分の仕事の進め方を見直したり能力開発を行ったりするだけでなく、職場において積極的にリーダーとしての役割を果たすという心構えが重要であるとした。

（「参加者NOTES」11頁掲載）

### ■管理職マネジメント研修

9月8～9日(月～火)、第7回目の管理職マネジメント研修を21名が参加して富山県農業総合研修所で開講した。

この研修は、現場指揮において経営理念・経営方針を共有・実践できる「企業目標達成に向けたリーダーシップを発揮する管理職」の育成を目指し、他社の同じ目的・課題意識をもった管理職同士が「他流試合」的に集って、経営・ビジネスのセオリー・基礎を習得し、それを現場実践に応用直結させることを狙って実施している。講師は、(株)フォーワン代表取締役で中小企業診断士の羽田野正博氏が担当し、マネジメント、マーケティング、経理・財務知識、キャリア・デザイン、タイムマネジメ



ントほかをテーマに、来年5月まで3回の合宿研修を含む9回、延べ12日間で開催する。グループワークなどを通して社外人脈ネットワークの構築も積極的に行い、終了後も「同期会」での交流を継続していく。

第1会合は「経営観の基礎」について学ぶとともに、当協会副会長のコーセル(株)町野利道取締役相談役から「仕事のスタンス」と題して特別講演をいただき(内容は18頁に掲載)、会社とは何かを改めて確認し、管理職に求められるスタンスについて学んだ。

第2会合は10月15日(水)に「コミュニケーションスキル～対話合意形成～」について演習を通して学ぶ。

## ■改善力養成講座

### ～業務改善・基礎編～

9月18日(木)、43名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

日本HR協会K A I Z E N事業部「創意とくふう」編集人 東澤文二講師は、経営環境が激変している今こそ改善活動の強力な推進が必要であり、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が大切であると力説した。問題の裏返しや見える化などの改善の方程式・定石・公式について、工場や店舗などの様々な事例を通して学ぶとともに、改善メモを短時間で作成する実習も行った。改善の定着化、活性化を図り、改善力・完全指導力をつけるには、改善事例と定石の組み合わせの大量蓄積が重要であり、とりあえず職場で実践してみることが重要であ



るとした。

来年3月19日(木)には、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的なノウハウを研究し、改善エキスパートを養成するため、「改善力養成講座～業務改善・応用編～」を開催する。



## 参加者NOTES

教育委員会

### 「女性リーダー活性化セミナー」を 受講して

富山トヨタ自動車株式会社  
総務部 人事課 富田 有希



今回「女性リーダー」向けのセミナーということで、私に理解できるのか、内容についていけるのか、不安がありました。それでも講師の岡野先生が終始、こちらまで元気になるような明るい雰囲気でお話し下さり、周りの受講生の方も気さくな方ばかりだったおかげで、随分リラックスして受講できたように思います。

およそ6時間にわたる講座の中で様々なワークを行いました。一見、単純に見える課題でも取り組んでみると、すんなり言葉が出てこなかったり、自分を客観的に見

つめる作業にかなり戸惑ったりしました。さらに、良きリーダーに必要な「傾聴」「観察」「共感」のトレーニングにも挑戦しました。このテクニックは、私の業務である採用活動にも役に立つもので、大変参考になりました。

そしてセミナーを通して最も私の心に響いたのは、終盤で先生が仰った“他人と過去は変えられない”“自分が変わることで他人が、未来が変わる”という言葉でした。

女性は周囲を観察し相手の気持ちを汲み取ることに比較的長けているように思います。しかし、他

人を誉めたり逆に間違いを指摘したりすることは意外にうまくできないことも多々あります。人を動かすには、相手を変えようとするのではなく、自分が変わることで相手を変えようという発想の転換も必要なのだと、実は以前にも聞いたことがあったのに忘れていたこの言葉が、今日はなぜか妙に腑に落ちました。

今回のセミナーでは、それを上手に、かつ女性らしくしなやかに実行するためのノウハウを教えてもらったのだと思います。

また、ふと会場で周りを見回すと、とてもイキイキした笑顔の素敵な女性ばかりでした。今日お会いしたのはほんの一部ですが、富山でこれだけ多くの女性が責任とやりがいのある仕事を持って日々頑張っていると思うと、大変勇気づけられる1日になりました。

## 品質管理委員会

### ■定例委員会

9月2日(火)、町野委員長はじめ20名が出席して富山経協・研修室Aにおいて開催した。

町野委員長挨拶の後、2014年度中間事業報告と今後の活動予定について審議を行った。事務局から、終了した講座のほとんどが定員を上回る受講者数であったこと



を報告した。また、今後の計画として「TQM経営者ミーティング」、「ものづくり品質管理セミナー」、「県外企業見学会」について、講師、開催日、見学先が決定したことを報告し、委員企業の参加協力をお願いした。

会議の後、「従業員満足度を上げる工夫」をテーマに、グループごとに品質管理にも直結する従業員のモチベーションの上げ方等について、活発なディスカッションを行った。

### ■「ものづくりと現場改善」 実践セミナー

8月25~26日(月~火)、25名が



参加して、トナミ運輸年金会館において開催した。この講座は、①グローバル化時代の中で、ものづくりの基本について学び、考え、相互啓発を図る、②自分の役割を再認識し、「人間力」を発揮し、部下とともに改善を推進する力や方法について学ぶ、③ものづくり現場での工程改善、作業改善など考



### 参加者NOTES

品質管理委員会

## 「ものづくりと現場改善実践セミナー」を受講して

カナヤママシンナリー株式会社  
真空機器部門 課長 林 和宏



今回のセミナーを受講したきっかけは、上司からの提言・指示でした。以前にも何度か講習会などに参加したことがあり、また同じ様な事かと正直、あまり乗り気で無かったです。初めは、そんな気持ちで望んでいましたが、講義が始まり、第1ステップ、第2ステップとやっていくうちに、講義にのめりこんでいきました。

内容は、第1ステップから第4ステップまであり、途中に、となみの工業(株)取締役社長 萩野先生の講義があり、トヨタ生産方式や設備総合効率など、徹底した無駄の排除や、ライン生産の徹底された作業標準や時間管理に驚きと、そこまでやらなくてはいけないのだと思い知らされました。

講義の多くはグループ討議で、5人1組のグループで意見交換し、問題解決をして行く形です。その中でも私が特に印象に残ったのは、リーダーの資質とは！ 私自身、あまり考えた事が無く、色々な方々の意見を聞いていて自分に足りない所を自覚しました。今後、リーダーとして仕事をして行く中で、とても参考になりました。

現場の問題点の見つけ方…「問題がないのが問題」「問題点は現場にしかない、机上では何も解決しない」と言われ、弊社の現状がまさにその通りだったので衝撃を受けました。現場を見て疑問に思う、疑問の原因を探る、それから行動を起こし、検証してダメなら再チャレンジして行くことの大事

さに気付かされました。

1日目の夜には夕食兼懇親会があり、色々な業種のリーダーの方々と会話し、悩みや今後の目標などさまざまな話で盛り上がりました。自分と同じような立場の人たちと個々の思い、問題、悩み等を語り合うことで共感することができ、会社では言えない事も発言できたことは、今までのセミナーと違うと感じました。とても楽しかったです。

現在、当社では「現場力向上委員会」を月1回開催しています。棚邊先生を講師に招き、各部門、各グループのリーダー達を中心にテーマを決め、改善活動を行っています。まだ始まったばかりで皆不安でいっぱいですが、この講習で習ってきた事を生かし、取り組んでいきます。

今回、お二人の講義を受講できたことは、私自身にとっての今後にとってもプラスになったと感じています。ありがとうございました。

え方、方法、実践スキルなどの着眼点について学ぶ中で、果敢に挑戦するリーダーを養成することを目的に実施している。

講師の棚邊一雄 M&P 研究所代表が2日間にわたり、(1)リーダーとしての役割を再認識する、(2)現場の問題のを見つけ方を学ぶ、(3)リーダーの資質について考える、(4)発表、講評、決意表明を行うなど、各自の理解度を確認しながら段階を追って指導した。

また、萩野利夫となみの工業(株)代表取締役社長からは、トヨタ生産方式の概要と標準作業の概要、

T P M (Total Productive Maintenance & Management) について解説があり、改善活動を進めるに当たって必要となる作業時間・設備効率の観測・分析の手法を学んだ。

25名の参加者は1泊2日の研修において異業種交流を活発に行い、自職場で抱える悩み等について意見交換を行っていた。

(「参加者NOTES」12頁掲載)

#### ■第4回TQM経営者ミーティング

9月9日(火)、TQM経営者ミーティングを、10名が参加して富山第一ホテルにおいて開催した。



当講座は企業役員を対象に、品質経営、TQM、経営トップの役割などを、優良企業のトップによる実際の事例を学び、企業において活動を実践することにより売上増大、利益の向上につなげていけるよう、そのための指針やヒントをつかむことをねらいに開催して



#### 参加者NOTES

品質管理委員会



### 「ヒューマンエラー対策講座<実践編>」を受講して

三光合成株式会社  
T & Eビジネスユニット  
製造グループ 技師 木下 明雄

私の部署では最近、ミスが多発しており、頭を悩ませる日々を送っておりました。そんな中、今回受講する機会を頂き、これは良いタイミングだと参加させて頂くことに決めました。

講義が始まると、それは興味深いものでした。特に印象に残ったのは、エラープルーフ化の5つの原理で、間違いを発生させない仕組み、間違った作業をしてもミスが発生しない仕組みを詳しく分析したものでした。排除や代替化、容易化などに分類され、ヒューマンエラーを起こさせないこの原理に、聞けば聞くほど圧倒されながらも学ぶ事ができました。

また、グループ討議では、私とは異なる様々な職種の方々と共に一つのヒューマンエラーをテーマに取り組みました。討議を進める内に色々な意見が飛び交い、私には無い発想の改善案を聞く事ができ、大変貴重な時間でした。今後はこの素晴らしい経験を私の仕事場でも活かしていきます。10月に応用編も参加させて頂きますが、どんな事が学べるのか今から楽しみにしております。



日本カーバイド工業株式会社  
生産技術センター

山本菜穂子

今回、市川亭司先生に教えていただいた事はどれも納得できる事ばかりで、楽しく学ぶ事ができました。テキストにもポイントがわかり易く文章化されていて、これを活用して職場のみなさんへ自信をもって説明する事ができました。

早く実践したい点は、①仕事は業務+改善を、日々改善に努める、②知識より知恵を学ぶ、③潜在的な問題への発見と対応に努める、④現場、現物、現実の3原則で把握した事を原理、原則に沿って判断する、⑤何をいつまでにどのようにするのか確認のとれた仕事の進め方をする、⑥ヒューマンエラーの真の原因をきちんと、粘り強く追求し、それを元に対策をする、の6点です。

人はとかく環境に流されやすい生き物です。講習を受けたからといって簡単に思い込みの特性が消える訳でもありません。しかし、学んだ考え方を忘れずに、活かしながら今後のヒューマンエラー対策活動を前向きに進め、限りなくエラーをゼロに近づけていけるように取り組んでいきたいと思っております。まずは、職場において先生のおっしゃった事を教える活動に取り組みたいと思っております。

いる。

講師として、2013年度デミング賞を受賞された、名北工業(株)代表取締役社長 福西康和氏をお招きし、「名北工業のTQMの取組み」と題して講演いただいた。

引き続き3グループに分かれて参加者全員の関心が高い「人の能力を引き出すマネジメント(人財育成)」をテーマとして、グループディスカッションを行った。企業役員がほとんどを占める参加者は、各々の経営課題について講義・グループディスカッションを通して方向性を見出していた。

## ■ヒューマンエラー対策講座

＜実践編＞

9月10・11日(水・木)の2日間にわたり、富山県市町村会館にお



いて開催した。講師はパワーアップ研究所所長の市川享司氏と、QCサークル上級指導士の高橋芳邦氏が担当した。10回目を迎えた今年、幅広い職位・年齢層から60名の参加があった。

昨今、品質にかかわる重大事故や不祥事が後を絶たない中で、その陰にはいろいろな形でヒューマンエラーが潜んでいる場合が多く、それらへの対処が企業にとって大きな課題となっている。本講座に例年多くの参加者があることも、

各社の関心の高さを示している。

講義では最近の事故事例や誘発メカニズム、要因解析、企業体質の分析などから「ポカよけ」などの防止策へ進んだ。並行して行われたグループ演習では自己紹介の後、持ち寄った各社の事例からグループごとに1つを選んでヒューマンエラー撲滅対策書の作成に取り組み、更に全体発表を行って質疑応答を交わした。品質管理委員会の講座担当委員からも各グループの発表に対して講評が行われた。

業種も立場も違う受講者ながら、共通のテーマで活発な議論が尽くされ、事後のアンケートでも自社に戻ってからも活かしたいとの声が多く寄せられた。

(「参加者NOTES」13頁掲載)

## 環境委員会

### ■定例委員会

8月28日(木)、三鍋委員長はじめ20名が出席して、富山経協・研修室Aで開催した。



第I部として(株)グループフィリア代表取締役 森田弘美氏を招いて、2012年8月に北陸経済連合会主催の「欧州エネルギー政策視察」に参加された内容を基に、欧州各国のエネルギー政策上の現状と問題点、また、欧州各国との比較から見えてくる日本のエネルギー政策上の課題について講演いただいた。

第II部の定例委員会では、三鍋委員長挨拶の後、2014年度中間事

業報告と今後の活動予定について審議した。その他、出席企業からの情報提供として、北陸電力(株)白江副委員長より、北陸電力(株)の2013年度CO<sub>2</sub>排出量およびCO<sub>2</sub>排出原単位実績の説明があった。

### ■富山県生活環境文化部との 情報交換

8月28日(木)、30名が参加して、富山商工会議所ビルにおいて実施した。

今回は、環境政策課 山崎主任より「循環型社会と低炭素社会づくりの推進について」、環境保全課 八田主任より「生活環境の保全について」、環境政策課 的場主任より「海岸漂着物の現状と対策について」、公益財団法人環日本海環境協力センター 神保課長補佐より「環日本海地域における環境保全の取り組みについて」と題して、環境行政に関する講演をいただいた。県民総参加による幅広い環境



取組み、県民の関心が高まっている微小粒子状物質(PM2.5)、海岸漂着物問題など、いずれも興味ある内容であり、参加者からは活発な質問が寄せられた。

(講演要旨は17頁に記載)

### ■ISO14001内部環境監査員 養成講座

9月17・18日(水・木)の2日間にわたり、富山県農協総合研修所において開催した。講師はインターテック・サーティファイケーション(株)環境審査員 和田浩志氏が担当した。今年、ものづくりの会員企業を中心に幅広い職位・年齢層から39名の参加があった。



## 参加者NOTES

品質管理委員会

### 「方針管理実践講座」を受講して

富山化学工業株式会社 品質管理部  
品質管理グループマネージャー 川淵 啓代



本講座については、巡回指導で必ずひっくり返され、睡眠時間も取れない厳しい研修だと聞いていましたが、マネジメントの研修を受けたいと思っていたので、受講を持ちかけられた時は良い機会だと思い参加することにしました。

研修は、講義とグループディスカッションから構成されておりました。講義では、玉川大学の小野先生より「方針管理の進め方」、M&P研究所 棚邊代表より「方針管理実践のための部課長のマネジメント」、ロバスト経営研究所長 飴氏より「部課長に望むこと」の

話がありました。

グループディスカッションでは、「経営課題・目標を達成するための部課長の役割」をメインテーマとして、メンバーと問題点を共有化し、QCストーリーにより問題解決し対策へと導いていきました。異業種の人からなるグループで、問題点を共有化できるか不安でしたが、管理者として悩んでいることは同じであることが分かり、共通認識に立って討議することが出来ました。講師の巡回指導では「現状把握で掘り下げが足りない」と指摘を受け、グループでさ

らに話し合い、終了したのは夜中の1時30分でした。今回の研修で、深く掘り下げることにより問題の本質が分かってくること、他責ではなく自責で考えることなどを学び、QCストーリーによる問題解決のプロセスを理解することができました。

今後は、飴氏の“耳を大きく、口は小さく、目はやさしく”を実践してまず自分を変えて、部下とのコミュニケーションを密にし、経営課題・目標を達成できるよう進めていきたいと考えています。

今回の参加者は25名でしたが、女性は私一人でした。過去においても34回開催で女性は一人しか参加していないと聞き、寂しく感じました。本講座はきつい研修ではありますが、得るものは多いので、来年以降も女性に参加してもらおうよう働きかけたいと思います。



タカギセイコー株式会社  
新湊工場 品質管理課 山吉 一広

### 「なぜなぜ分析活用講座」を受講して

中越レース工業株式会社  
試作検証課 課長 長井 美子



今回、この講座には、品質不具合に対して確実な再発防止対策を打つための、問題を論理的に追求して真因をつかむ手法の習得を目的に参加しました。

講義では系統図による、なぜなぜ分析の進め方や、なぜなぜ分析シートの活用方法について学びました。

系統図を使用することで、他の手法では4M分析や、事実とは無関係に予測や思い込みで要因を出し合い、複雑で多くの要因を抽出し、真因にたどり着きにくい場合が多いが、系統図は5ゲン主義に基づいて要因を抽出し、調査・検証を行いながら検討し、判断しているので、真因にたどり着きやすいことが判りました。

グループ演習は、なぜなぜ分析シートを活用して特性の真因を抽出するという内容でした。メンバー全員から様々な意見が活発に飛び交い、なぜなぜ分析を習得し、自社での改善活動に活かしたいという思いを感じ取りました。

今講義で学んだことを職場に展開し、職場全体でなぜなぜ分析を活用して、生産トラブル防止の仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。

今までは、不具合が起きた時、過去の経験や勘で問題解決に努力していました。しかし、市川先生の講義では、最初の「なぜ」を起点に事実・現象をよく見る・視る・観る・看る・診ると共に、5ゲン主義に基づいて分析する事。そして、なぜ、なぜ…と繰り返して真因にたどりつき、対策を立てるまでについて、経験話を交え、たくさんの手法を教えてくださいました。現状を見直し、常に問題意識・改善意欲を持って品質を高めていかなければならないと強く思いました。

グループ演習では、様々な業種の方々と、トラブル防止の仕組み作りを「なぜなぜ…」と真因にたどりつくまで議論し、対策を立てるまでを学習しました。業種の違いからか、いろいろな角度からの考え方や意見が出て、とても参考になりました。さらに先生方の講評を受ける事でより理解が深まりました。

これからは自ら行動し、生産現場の皆と「なぜなぜ分析」を実践し成果を上げて行きます。



この講座は、自社の「環境マネジメントシステム」を公正かつ客観的に評価できる優秀な内部環境監査員の養成を目的としたものである。本講座には例年安定して参加者があることも、会員会社の関心の高さを示している。

講義では、実際の内部監査に役立つよう座学とロールプレイを組み合わせた、実情に合った効果的な監査の手順・方法について学んだ。事後のアンケートでも理解が深まった、自社に戻って活かしたいとの声が多く寄せられた。

（「参加者NOTES」16頁掲載）

## 経営企画委員会

### ■2014年度第2回委員会

8月8日(金)、守山委員長はじめ委員7名が出席して富山経協・研修室Bにおいて開催し、2014年度研究テーマの中間報告と事業の進捗と今後の事業案について審議を行った。

守山委員長より、本日は「強い現場力を支える人材育成（現場力）」の研究の進め方、事業の進捗と今後の事業について審議をいただきたいとの挨拶があった。引き続き、事務局より①2014年度の研究テーマ「現場力」についての研究のまとめの概要とその一環として実施している県の「高度ものづくりマネジメント研修」の実績を説明した。②「ISO9001・14001の2015年度改訂対応セミナー」は10月1日に開催することを報告し、審議を行い、「現場力」の研

究は経営者を対象にその役割とそれを果たすための取り組みの参考事例などを引き続き調査・研究を進め、次回委員会で審議することを決めた。次回委員会は12月4日に開催する。

### ■ISO9001・14001

#### 2015年度版対応セミナー

10月1日(水)、22名が参加して富山経協・研修室Aで開催した。本セミナーはISO9001・14001の2015年改訂版の発行に合わせて、改訂内容と企業が取べき対応についての理解を深めるために新たに企画した。



講師の(株)テックス 青山俊一コンサルタントは、今回の規定改訂は“経営に役立ち組織目的をマネジメントシステムで達成するISO”がねらいであり、今年5月に発行された改正版の案に対して関係機関からの意見要望を受け入れ、最終版が2015年7月までに発行される予定で進んでいるが、企業は改定への対応を急がず、情報を入手して自社の実情に合った対応をして欲しいとの説明の後、注意してほしい改訂内容について解説した。

受講者からは、審査のためのISOではなく事業に役立つ改訂となった、急いで2015年中に対応しなくてもよいことが分かったなどの感想や、個別の指導にも対応してほしいとの意見が出た。

## 参加者NOTES

環境委員会

### 「ISO14001内部環境監査員養成講座」を受講して

北日本印刷株式会社  
製造部 岡部 憲治



2日間にわたる内部環境監査員養成講座に参加させていただき、今まで曖昧な理解しか出来ていなかった「ISO14001」に対する知識を深めることができました。

講座は講義とグループワークで行われ、まず自分で考えた後、講師の和田先生が具体的な事例を交え分かりやすく説明していただきました。

講座の中で印象深かったのが、製品は製造時の環境への影響だけでなく、製造後の製品使用時も環

境への影響を考える「ライフサイクル」という考え方と、汚染が起きてからではなく、何よりも「予防すること」が重要であるということです。

自分の会社の設備、製品をよく理解し、会社の環境理念である「地域環境問題の負荷低減や環境保全と調和をはかる企業活動の展開」に向けて、内部環境監査員としてこの講座で学んだことを生かしながら積極的に実践していきたいと思います。



## 循環型社会と低炭素社会づくりの 推進について

環境政策課 企画係 主任 山崎 昌昭



県では、「新・元気とやま創造計画」(平成24年4月策定)の政策の柱である「安心とやま」の実現に向け、「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」を基本政策の一つに位置づけ、県民総参加による幅広い取組みを進めています。

特に6年前に始めたレジ袋の無料配布廃止については、25年度のマイバッグ持参率が過去最高の95%(全国トップ)と大きな成果をあげており、この取組みは全国にも広がっています。県では、この取組みをさらに一歩進めるため、25年10月に「とやまエコ・ストア制度」をスタートさせました。取組み事業者数は、現在62社1,015店舗・5商店街に拡大しており、今後とも、本制度が県民総参加の運動となるよう取り組んでいきます。

このほか、新幹線開業に向け、来県される方をよりきれいな富山県にお迎えするため、本年10月～12月に県内の清掃活動を推進するキャンペーンなどを実施します。

今後ともこうした取組みを通じて、本県の循環型社会と低炭素社会づくりを推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 生活環境の保全について

環境保全課 大気保全係  
主任 八田 哲典



県では、生活環境の保全に向け、環境状況の把握や環境汚染の未然防止や県民等による自主的な環境保全活動の展開などの取組みを総合的に進めています。

平成26年度は、県民の関心が高まっている微小粒子状物質(PM2.5)の測定機を2基増設するほか、環境放射線監視体制の強化として分析装置及びサーベイカーの導入、分析室の整備を進めています。また、自主的な環境保全活動を促進するため、「地下水の守り人」の養成や「とやま川の見守り隊」の隊員募集、星空観察会を開催するとともに、エコドライブ推進運動を展開しています。さらに、環境科学センターでは環境保全に関する調査研究を実施しています。

今後とも、環境の状況についての的確に把握するとともに、生活環境の保全に支障をもたらす課題に対して、適切に対応し、快適で恵み豊かな環境の実現に取り組むこととしていますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 海岸漂着物の現状と対策について

環境政策課 廃棄物対策班  
主任 的場 義典



近年、国内の海岸では、プラスチックや発泡スチロール、アシ類や流木などの多くの漂着物によって、美しい浜辺の喪失、生態系を含む海岸環境の悪化、漁業への被害といった深刻な問題が引き起こされており、残念ながら本県の海岸も例外ではありません。

こうした漂着物はどこからくるのでしょうか。国内由来や海外由来など、漂着物の発生源は様々ですが、県内の海岸で確認される漂着物は、そのほとんどが森・川・海とつながる水の流れを通じて漂着したものと考えられています。

川などを通じて流れてきたごみが海岸に漂着していることを踏まえると、海岸から遠く離れた上流域の住民の方々も、この問題と無関係ではないといえます。

漂着物の発生抑制を進めるには、上流域を含めた幅広い地域の皆さんが、「ごみをポイ捨てしない・散乱させない」、「自分たちの環境は自分たちが守る」ことを意識し、行動していくことが必要です。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 「環日本海地域における環境保全の 取り組みについて」

(公財)環日本海環境協力センター  
企画交流課 課長補佐 神保 高之



環日本海地域の環境保全のため、(公財)環日本海環境協力センター(NPEC)は、国連、環日本海地域の政府、自治体等と連携・協力して、様々な事業を実施しています。

国際環境協力事業としては、沿岸自治体との連携協力を図るため、「北東アジア地域自治体連合(NEAR)環境分科委員会」等の国際会議を開催運営しています。

また、北東アジア地域の青少年が参加し環境活動体験や活動発表等を行うプログラムの開催や、海外の技術職員への環境分析測定技術研修などの人材育成事業のほか、日中韓露の市民が参加する海辺の漂着物調査や漂着物アート制作・展示会、リモートセンシング技術を活用した植物プランクトン、藻場、水温の分布等の海洋環境モニタリング等を実施しています。さらに、環境保全活動に積極的に参加協力する「環日本海・環境サポーター」を募集し、県民やNPO等との連携協力も推進しています。

今後とも、これらの取組みを通じて、環日本海地域の環境保全に貢献していきたいと考えております。

## 「仕事のスタンス」

コーセル株式会社 取締役相談役  
町野 利道 氏



### 会社のスタンス

会社の目的は社会への貢献です。社会への貢献は、一に商品です。提供する商品が世の中のためになっているか。二に雇用です。人を雇って給料を払い、皆が生活できるようにする。三に税金を払うこと。きちんと利益を出し国に税金を納めること。環境保護などのCSR活動が前面に出過ぎるのはどうかと思います。会社は社会のもの。株式会社は法的には株主のものですが、公のものであります。会社は法人で、法的な人だから人格があります。それは構成員の意識の加重平均で成り立ちます。創業から数年の間に、社長と合わない人が辞めて基本的な考え方が同じ人が増え、その人たちが次に入社してくる人達に伝道していく流れの中で会社の文化が出来ると思います。

### 仕事のアウトプット

仕事のアウトプットは個人の能力・コミュニケーション・マネジメントの掛け算で決まります。個人の能力が高くても、目標に近づくには皆で意思疎通を図り一体にならなければいけません。またマネジメントの力量によって、アウトプットが変わります。

### ポジショニング

ポジショニングは「どこで」「誰と」「どう」戦うか。コーセルの場合、最初は電子部品商社から電子機器製造の下請、電源の自社製品に特化して今日に至ります。

戦う場所は数年単位で変えましたが、何か一つ決めたら最低でも3～5年は取り組むべきです。誰と戦うかは、ターゲットを明確にしてコンペティターの力量を測ることです。メインコンペティターの財務データはもちろん、メーカーであればどんな商品か、どんなお客さんに売っているかを全部分析して、敵の良いところ、悪いところを全部みているかどうかです。

### 経営手法

コーセルはTQMを核に置いています。TQMをやるということは品質を通して納期を作る、品質を通してコストを作るということです。JIS用語の品質管理の解説には「顧客の要求を経済的に達成する手段の体系である」と書いてあり、利益を出す方法なのです。

### 体質改善

人も会社も自らは変わりません。お客さん、社会、コンペティター、コンサルタントなど外部の影響で変わります。このままでいたいと思っても環境がどんどん変わります。自ら変わるために高い目標を立てる方法もありますが難しい。

教育は、①経営情報の開示、②仕事結果のフィードバック、③OJT、④Off-JTです。大企業と中小企業の差は、先のことを大事にしているかどうかです。忙しい中で、歯を食いしばって、将来のための時間を割いているのです。

今、自ら考える社員が求められ

ているが、会社や部署の状況を伝えておかないと考えることは出来ません。経営情報の開示と言うのは会社の経営情報だけでなく、部の経営情報、課の経営情報を出しているかと言うことです。

仕事ができるよう育て、仕事で成果を上げさせ、それを認めるのが本来のESです。

教室形式の教育が一番駄目で、仕事の中で教えられて体で覚えたものだけが知恵になります。知識だけでは役に立ちません。

### エキスパートの育成

どの会社にもエキスパートがいますが、会社によってレベルが違います。他所からトップエンジニアを連れてきてレベルを引き上げようとしても上手く行きません。時間はかかりますがボトムやミドルをレベルアップし、全体の底上げをしていくことが大事です。

そうすれば、エキスパートは中からちゃんと出てきます。

### 基軸を持つ

目指す位置に一直線で行ったら「軸のぶれない人だ」となりますが、自分の位置を知るには相対的に見る視点を持たなくてはいけません。私は「無限遠方から測る」と言っていますが、目標からどれだけずれていても無限遠方から見るとズレはゼロです。ところが有限の視点を置くと、目標と自分の現在位置とのずれが判る。そういう視点をいくつも持つのが人生の

軸です。

仕事の軸は計画で、計画を作るとズレや遅れが判ります。問題点は、あるべき姿から現状を差し引いた差です。あるべき姿を持っていない人が多いが、それは決めていないからです。決めると苦しくなるし、事前に色々やらなければいけない。あるべき姿とは決めるものです。

過去を伝える時はモデル化すると分かりやすい。我々もモデル化した過去から色々なことを勉強しています。今やっている仕事もモデル化して考えて、きれいに進めたいと考えがちですがそれは間違いで、現実には混んとしているのでも目の前の事をどんどんやるしかない。5年、10年経って振り返る時にモデル化すればいい。

### 仕事の構造

仕事は主作業、付随作業、ムダ作業の3つに分かれます。主作業は全体の7～8%しかないので、改善で半分にしても4%しか減りません。ムダ作業は全体の40%あるので、半分にすると20%の削減になります。何がムダで何が付随で何が主かというのは見る人によって変わってきます。

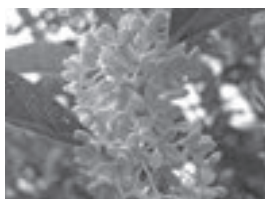
### 出来る管理者とできない管理者

現状維持したいと思っても、外部環境や内部環境の変化によって生産性が落ちます。日々の改善で落ち込みを補うこともできますが、やり方を変える改善が大事です。

たとえば、10人の作業員から2人抜いて改善に専念させる方が効果は大きい。生産性は一旦落ちますが、やがて元の生産性を超えま

す。一旦落とすことを出来るのが優秀な管理者です。

私も若い頃に色々な講習を受けました。その時に「ためになるなあ」と思って帰っても、会社で実践できないことが多々ありました。しかし、後から「あの時の講習会のおかげで今こういうことが出来る」と気づきます。長丁場ですが効果的な成果を焦らず、無理しないでじっくり勉強されると良いと思います。



表紙の花 キンモクセイ

キンモクセイの花（雄花）

### トイレの香り？

10月に入ると、街のあちこちでキンモクセイの甘い香りが漂い始めます。キンモクセイは中国原産で、「桂花」または「丹桂」と呼ばれ、花を白ワインに漬込んで熟成させたものが「桂花陳酒」です。甘味と香りが強く、最近ではコンビニの店頭にも並ぶほど普及してきました。また、香りをお茶に移した「桂花茶」や、花を蜂蜜漬けにした「桂花醬」も親しまれています。

一方、日本ではこの香りは1990年代までトイレ用芳香剤の主流であったため、トイレを連想する人が多いのではないのでしょうか。キンモクセイにはちょっと気の毒な気がします。

### 日本には雄株だけ

キンモクセイは雌雄異株で、日本で栽培されて

いるのはすべて雄株のため実が着きません。花が白いキンモクセイは、最近雌株が導入されているそうです。九州南部には花が淡黄色のウスギモクセイという種類が自生していて、時々栽培され、実を着けています。節分に魔除けとして鯛の頭と共に飾られる柊（ヒイラギ）もモクセイの仲間、花はキンモクセイに似た香りがします。余談ですが、クリスマスに飾る赤い実のなる木はセイヨウヒイラギで、全く別のモチノキ科の植物です。

キンモクセイは日当たりを好むので植える場所に注意し、葉が汚れたら水で洗い流してやると花着きが良くなるそうです。

（富山県中央植物園 中田政司）

キンモクセイ▶



## 会員の動き

(50音順) (敬称略)

### ■ 代表者の変更

コマツNTC株式会社

代表取締役社長 桃井 克志 (前:西田正紀)

佐藤工業株式会社 北陸支店

支店長 金子 政史 (前:池田茂人)

三協化成株式会社

代表取締役社長 久湊 悟司 (前:梶田秀和)

株式会社 福井銀行 富山支店

富山エリア統括店長兼支店長  
河畑 浩紀 (前:堀内雅俊)

株式会社 北陸カード

代表取締役社長 北村 敏彦 (前:谷内正立)

矢崎エナジーシステム株式会社 富山支店

富山支店長 山本 昭雄 (前:中野耕司)

### ■ 社名の変更

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 富山支店

(前:株式会社損害保険ジャパン 富山支店)

### ■ 所在地変更

矢崎エナジーシステム株式会社 富山支店

富山市二口町1丁目1番2号

## 富山県の最低賃金

(地域別)

富山県のこれまでの最低賃金

712円から16円アップ↑

**728** 時間額  
円

**[発効日] 2014年10月1日**

※産業によって、特定(産業別)最低賃金が定められているものがあります。  
パートやアルバイトなどの雇用形態にも適用されます!

## 人材の確保・従業員の再就職をお手伝い!

事業の拡大・欠員補充等による  
人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、  
人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、まっ先にご相談ください。



公益財団法人

since 1987

出向・移籍(転籍)の専門機関

# 産業雇用安定センター

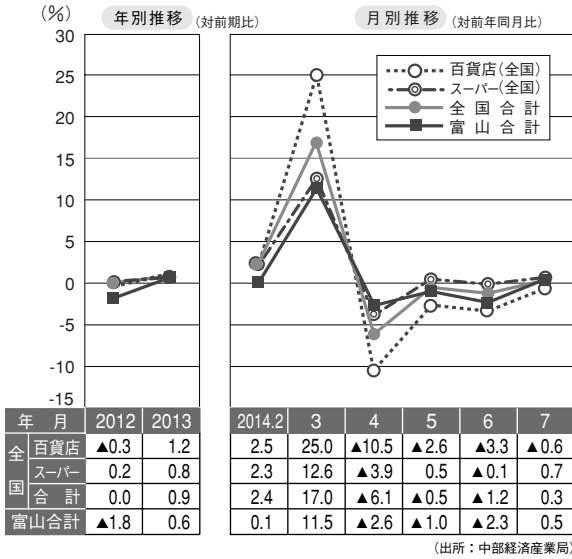
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900

ご利用時間/9:00~17:00(土・日・祝日は休み) FAX 076-439-2860

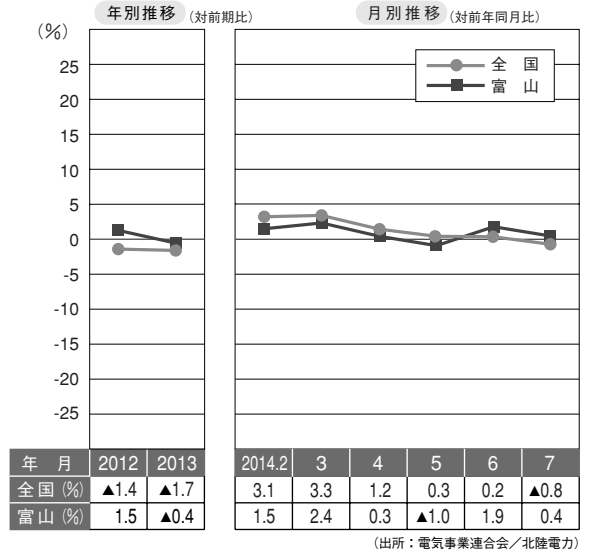
インターネットで最新の人材情報をどうぞ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>

# 景況指標

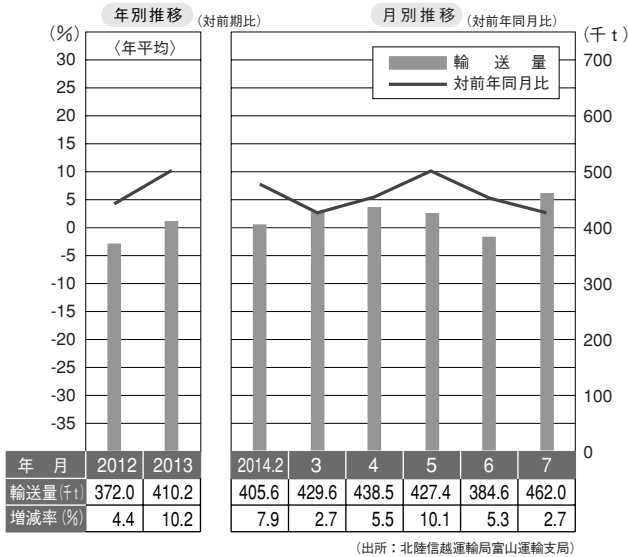
## ■百貨店・主要スーパーの売上高



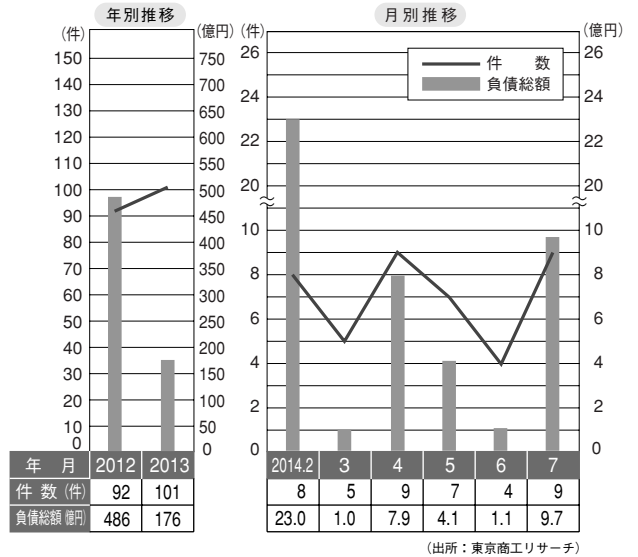
## ■大口電力消費量 (製造業計)



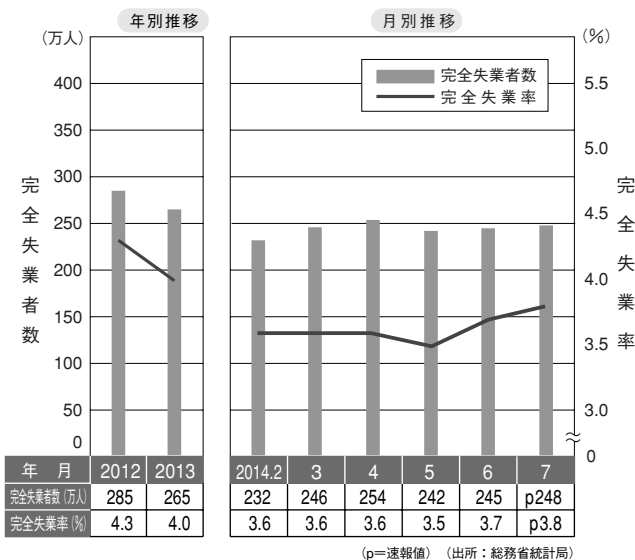
## ■一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



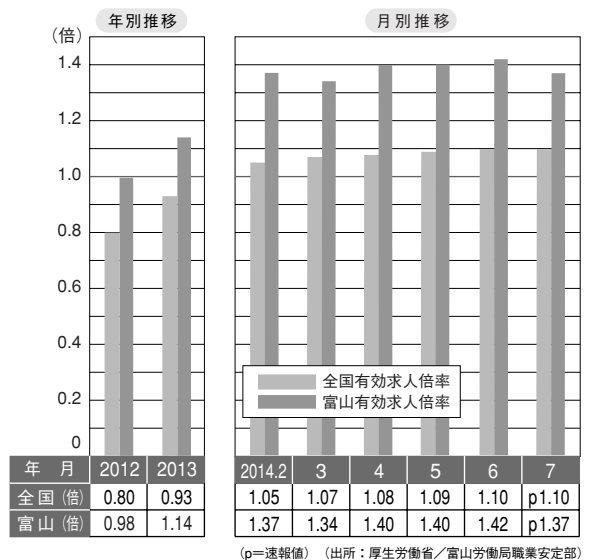
## ■企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



## ■完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



## ■有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



## 東部地区会員懇談会

日時：11月7日(金)

場所：ホテルグランミラージュ  
2階「天翔の間」  
魚津市吉島1-1-20 TEL0765-24-4411

◆17:30～18:30

ミニコンサート Tomomi (吉田朋美)

◆18:35～20:00

懇親会

2015

## 新春互礼会

日時：2015年1月5日(月) 16:00～17:30

場所：ANAクラウンプラザホテル富山  
3階 鳳の間  
(富山市大手町 2-3 TEL. 076-495-1111)

県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会・富山県商工会議所連合会
- ・富山県中小企業団体中央会・富山経済同友会
- ・富山県商工会連合会

## 事業予定

2014年10月16日～12月15日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)  
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	10月28日(火)	14:00～16:00	環境委員会「定例委員会」	環 境	三協立山株式会社	
	11月 7日(金)	17:00～17:25	会長・副会長会議		ホテルグランミラージュ	
	11月 7日(金)	17:30～20:00	東部地区会員懇談会		ホテルグランミラージュ	上記「おしらせ」参照
	11月19日(水)	16:30～18:30	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	富山経協・研修室B	
	12月 4日(木)	16:30～17:30	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	富山経協・研修室A	
講 演 会 見 学 会	10月20～21日 (月～火)		県外企業見学研修会	品質管理	オークマ(株)、アイシン・ エイ・ダブリュ(株)、トヨタ テクノミュージアム産 業技術記念館	
	11月 2日(日)		環境保全活動	環 境	とやま・ふくおか家族旅行村	
講 座 ・ セ ミ ナ ー	10月17日(金) 11月 7日・21日(金) 12月 5日(金)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室A	
	10月23日(木)	9:30～16:30	事務・間接部門の効果的な 業務改善の進め方セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	
	11月 5日(水)	9:30～16:30	コスト改善力実践セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	
	11月6・7日(木・金)	9:00～16:30	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	富山県市町村会館	
	11月7～8日(金～土)	9:30～20:00 8:40～15:00	管理職基礎コース	教 育	インテック大山研修センター	
	11月11日(火) 12月11日(木)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山県農業総合研修所	
	11月19日(水)	13:30～16:00	第3回労働法実務講座	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	
	11月26日(水)	9:30～16:30	経理・財務の基礎知識セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	
	11月26日(水)	13:30～16:30	ものづくり品質管理セミナー	品質管理	パレプラン高志会館	
	12月 2日(火)	9:30～16:30	「5S+目で見える管理」活動実践セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	

「富山経協」vol.814

2014年(平成26年)10月号  
2014年10月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)  
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール [info@toyama-keikyo.jp](mailto:info@toyama-keikyo.jp)